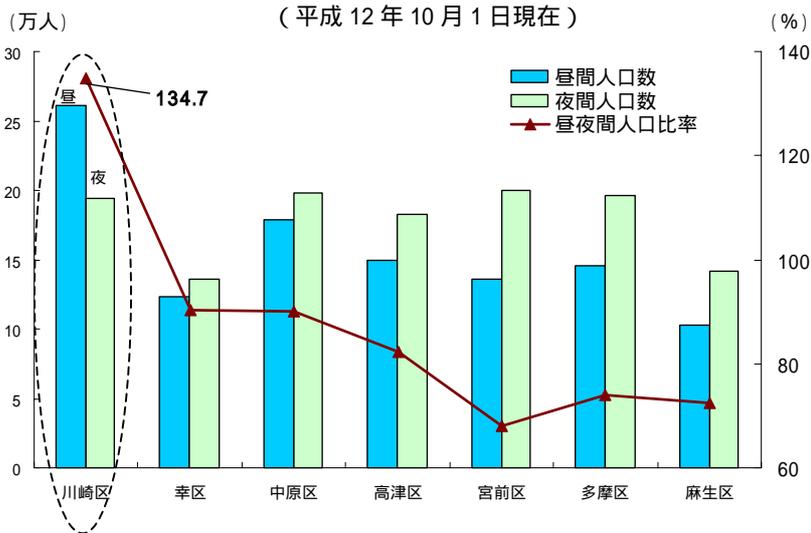


川崎の各区

昼間人口が夜間人口を上回る「川崎区」

昼夜間人口数及び昼夜間人口比率を区別にみると、川崎区の昼間人口は261,209人、夜間人口は193,929人で、7区の中で唯一、昼間人口が夜間人口を大幅に上回っています。

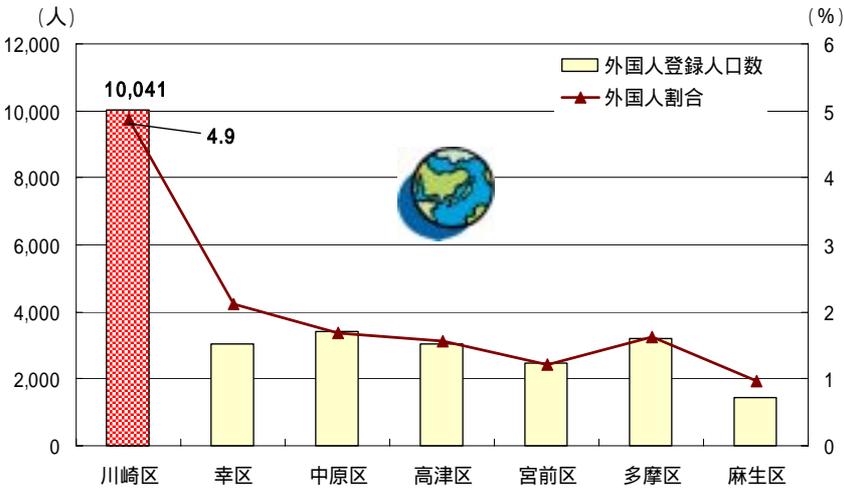
昼夜間人口数及び昼夜間人口比率



国際色もゆたかな「川崎区」

外国人登録人口数が多いのも川崎区の特徴です。外国人登録人口数及びその割合を区別にみると、平成16年3月末現在で川崎区の外国人登録人口は10,041人。人口に占める割合は4.9%と突出して高い割合を示しています。また、川崎区には「コリアタウン」があり、通称セメント通りを中心に本場の韓国料理や焼肉を味わえることで有名です。

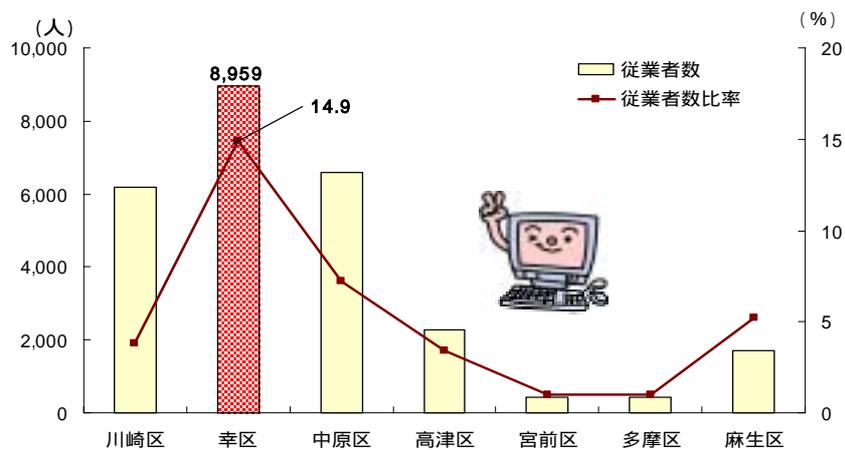
外国人登録人口数 (平成16年3月末現在)



情報サービスの中心地「幸区」

情報サービス・調査業における従業者数を区別にみると、幸区は8,959人で7区中最も多く、区ごとの全従業者に占める割合も14.9%で1番目です。製造業を中心に発展してきた川崎市南部地域ですが、幸区は情報サービス・調査業の中心になっており、今後も情報サービス・調査業が集積されていくことが見込まれています。

情報サービス・調査業従業者数(平成13年10月1日現在)

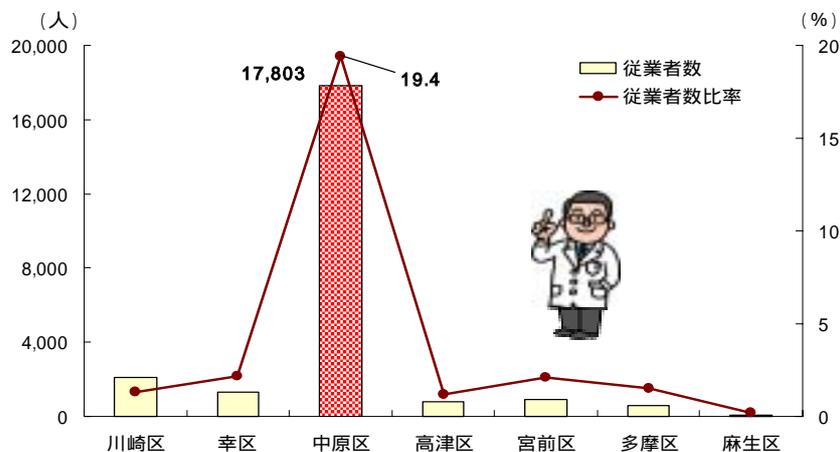


資料：事業所・企業統計調査

研究所の集積が進む「中原区」

学術研究機関（企業等の研究所）における従業者数を区別にみると、中原区は17,803人で、2番目の川崎区（2,102人）を大きく上回っています。また、区ごとの全従業者に占める割合も、19.4%で1番目です。中原区は他の区に比べて学術研究機関に携わる人が突出して多く、今後もさらに学術研究機関が集積されていくことが見込まれています。

学術研究機関従業者数(平成13年10月1日現在)

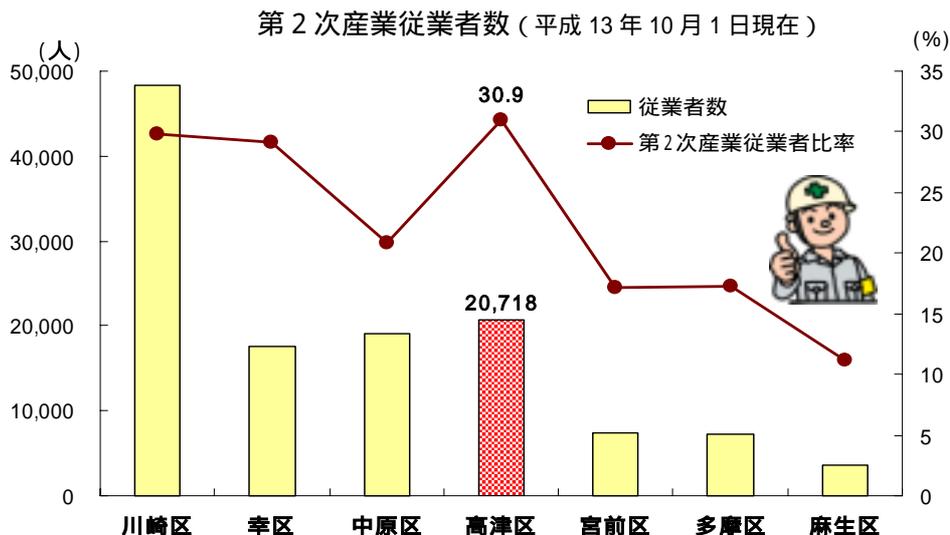


資料：事業所・企業統計調査

川崎の各区

ものづくりの盛んな「高津区」

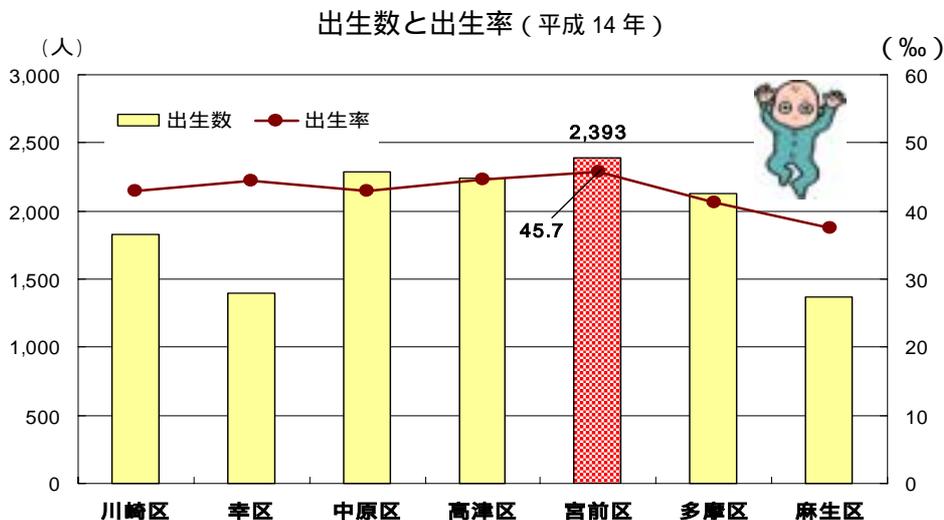
第2次産業(鉱業・建設業・製造業)の従業者数を区別にみると、高津区は20,718人で川崎区に次いで2番目に多く、区ごとの全従業者数に占める割合は30.9%と最も高くなっています。宇奈根・久地地区などを中心に、第2次産業に携わる人の割合が多いことが分かります。



資料：事業所・企業統計調査

こどもの多い「宮前区」

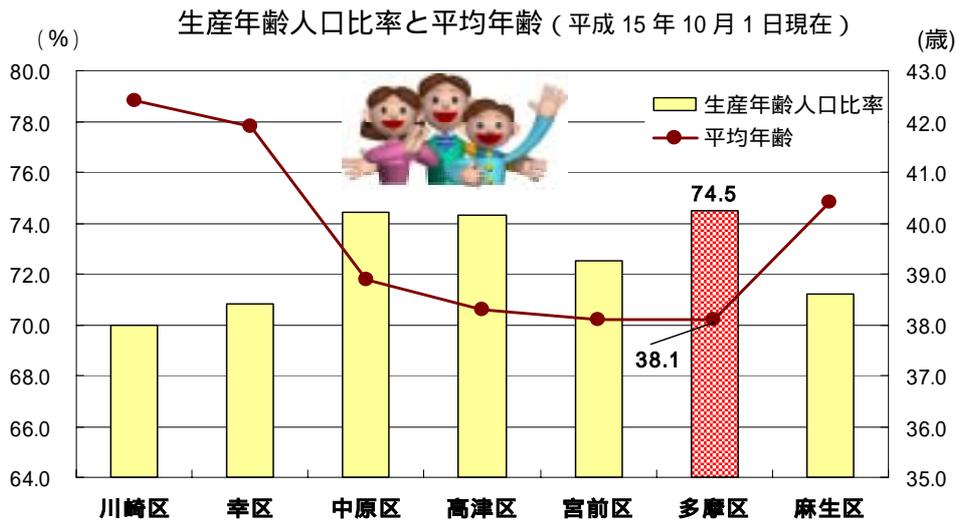
平成14年中に宮前区で生まれた赤ちゃんの数は2,393人でした。15~49歳の女性千人当たりの出生数を示す出生率は45.7パーミル(‰、例：45.7‰=4.57%)で、平成7年以降8年連続して最も高くなっています。また、平成15年の年少人口(0~14歳)の割合も15.9%と最も高くなっており(全市13.5%、全国14.0%)、こどもの多いまちと言えます。



資料：川崎市統計書

若く活力のあるまち「多摩区」

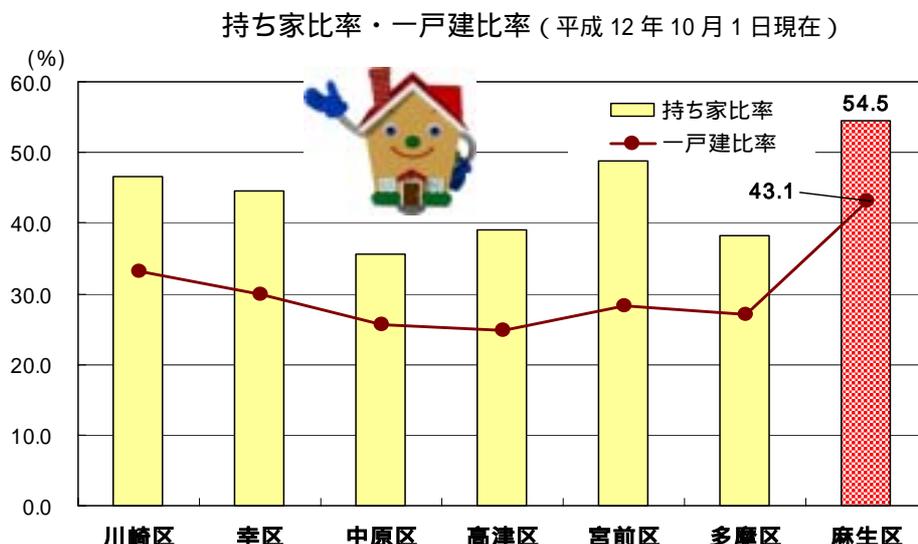
平成 15 年 10 月 1 日現在の生産年齢(15～64 歳)人口が区人口に占める割合をみると、多摩区は生産年齢人口が 74.5%で最も高く、平均年齢は 38.1 歳で宮前区と並んで最も低くなっています。また、公園緑地面積(平成 15 年 3 月 31 日現在)は 127.8 ヘクタール(ha)で 7 区中最大です。



資料：川崎市年齢別人口

マイホームが多い「麻生区」

平成 12 年国勢調査による区別の持ち家比率及び一戸建比率をみると、麻生区では住宅に住む一般世帯総数 54,427 世帯のうち持ち家の世帯数は 29,650 世帯で、総数に占める割合は 54.5%、一戸建の世帯は 23,465 世帯で 43.1%となっています。また、緑被率(平成 11 年 9 月現在)は 53.2%で、川崎市平均の 29.2%を大きく上回っています。



資料：国勢調査